

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2023 年度事業報告ならびに決算報告

【 2023 年度事業報告 】

1. コロナ禍の 3 年間を経て活動を継続している団体を支援すべく 206 団体に対して総額 1,500 万円のボランティア活動助成を行いました。助成団体に向けてのアンケート結果から 8 割以上がこの 3 年間で活動内容を変化させたり、新たな活動を始めたりと前向きに取り組んでいました。また、多様な団体と連携することで地域で頼りにされる拠点となることや活動メンバーのスキルアップなど団体自身の成長を望んでいることもわかりました。これらの団体の要望については、2024 年度のボランティア活動助成での資金面での支援と併せて、財団の中間組織としての役割をさらに強化していくこととしました。
 2. 社会的課題解決にチャレンジする団体を賛同企業とともに応援する「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は、20 社とコープこうべから寄付を得て 10 団体に対し、総額 445 万円の助成を行いました。
 3. 若い世代のボランティア人材の養成を目指して「高校生のボランティア顕彰」を実施し、5 回目となる 2023 年度は選考の結果、19 校を顕彰しました。
1. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します

(1) ボランティア活動助成

①2023 年度助成の分野別実績

分野	対象者	件数	助成額(円)	助成構成比(%)
福祉	高齢者	41	1,846,800	12.3
	障がい者	24	1,182,000	7.9
	青少年	1	154,000	1.0
	子ども(親子)	9	892,000	5.9
	地域住民	19	1,304,000	8.7
	施設・病院	2	21,600	0.0
	外国にルーツを持つ住民	1	49,000	0.3
	その他	10	890,000	5.9
	合計	107	6,339,400	42.3
まちづくり		8	671,000	4.5
防災・減災		4	303,000	2.0
人権		1	90,000	0.6
多文化共生・多世代交流		13	1,078,000	7.2
子ども育成		45	3,725,000	24.8
食と農		4	605,000	4.0
環境		17	1,383,600	9.2
その他		7	805,000	5.4
	総合計	206	15,000,000	100.0

②「市民活動交流会」を全団体参加で開催

2023年度は4年ぶりに全団体一堂に会しての交流会を開催しました。活動地域が近く、異分野の活動をしている6~7団体ごとのグループで交流しました。また、交流テーマについては、事前アンケートの結果にもとづき実行委員が中心となって企画しました。当日は、コープこうべの各地区の本部長やマネージャーなど職員も参加し、積極的に情報を得ようとする団体の熱気に包まれました。

交流テーマ

- ・活動を続ける喜び
- ・他団体との連携や活動の広報、メンバーを増やす手法について

③2024年度助成に向けて

2023年度は、活動のレベルアップを目指して講師料・学習費を充実させ、レンタル料なども対象としました。また、人件費の助成についての要望は高かったものの、ボランティア活動助成の考え方の根源に関わるため見送りとしましたが、外部の力を借りることで活動が発展することを期待して、外注費を助成の対象としました。

このように拡大した助成内容を継続しながら2024年度助成に向けての説明会では、財団が考える「目指していただきたい団体像」を新規申請団体に向けて発信しました。例えば、財団の助成金だけに頼らずに将来的には自立していただくこと、コープこうべや地域の多様な団体と繋がりを持っていただくことなどを具体的な助成団体の例を挙げて伝えました。今後も助成金をきっかけとして共に考え、学びながら団体の成長を支えていくことを目指します。説明会は、県内11会場と2回のオンラインで開催しました。(資料1-1)

●助成検討委員の構成

助成検討委員は、資料1-2のとおりです。

●選考基準

ボランティア活動助成の募集要項に下記の選考基準を記載し公開しています。

- ◇活動の公益性・必要性：公益性、必要性、地域貢献
- ◇活動の効果や継続・発展性：運営能力、チャレンジ性、広報力、連携
- ◇活動の実現可能性：実効性、計画性
- ◇費用の妥当性：助成金使途の妥当性、適切な受益者負担、会計能力
- ◇循環型のしくみへの理解

●選考方法

選考基準に基づいて評価いただき、助成検討委員ごとの評価点の合計を事務局で集約しました。助成検討委員会(2月29日に環境分野、2月26日・3月2日に福祉分野開催)では、その合計結果と助成予算を勘案しながら討議し助成案をまとめました。なお、論議を深め助成団体への提言等をいただくことを目的とし、2022年度から福祉分野を福祉とそれ以外の2分野に分けて選考および検討委員会を開催しています。少額助成「きらり助成」(上限1.5万円の助成)については、コープこうべ 地区本部長による選考会での第1次選考後、助成検討委員会でも協議しました。「ともしび助成」は助成検討委員会でのみ選考し全ての助成の案をまとめ、第34回理事会(3月24日開催)にて承認されました。

(2) 社会的課題解決にチャレンジする団体への助成

①第7回「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト助成」

(上限 50 万/団体、助成総額 445 万円)

社会的課題を新しい手法で解決しようとする意欲あふれる市民団体を賛同企業と力を合わせて応援する「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」。この助成では、NPO など法人格のある団体も応募可能とし、対象団体の幅をひろげています。

2023 年度は、53 団体から申請があり(前年度は 41 団体)、書類選考を通過した 10 団体が賛同企業の代表と専門家による最終選考会に進みました。最終選考会は申請団体と賛同企業、コープこうべ、財団で社会的課題を共有し解決に向けての手がかりを探していきたいとの思いから対話形式に変更しました。結果、下記 10 団体に合計 445 万円の助成を決定しました。

(10 団体 445 万円)

団体名/助成金額/プロジェクト名	プロジェクト内容
<u>NPO 法人ピアサポートひまわりの家</u> (50 万円) ひまわりガーデンを中核とした 地域へ広げる園芸療法活動	ひまわりの家のガーデンと畑で植物との 触れ合いを通してストレス緩和を目的と した園芸療法を地域に広げています。ガ ーデンやコットン畑の整備、子どもや地 域住民を対象としたワークショップを開 催しました。今後もストレス軽減につな がる社会と有機農業を広げることに貢献 していきます。
<u>一般社団法人 belle vie</u> (50 万円) 孤(こ)と孤(こ)がつながる 「cot cot (コトコト)」	メンタルヘルスの問題・悩み・生きづら さを抱えた当事者や家族、友人などが気 軽に地域の中で語り合える場を月に 1 回 開催しました。今後も専門職だけではなく、 同じ地域で暮らす多様な人たちが関 わりこの場をコ・プロダクション(共同 創造)していきます。
<u>M. Y. S Kobe(メイクユースマイル神戸)</u> (50 万円) 手話パフォーマンス 「虹色スマイル」で世界を笑顔に!	障がいの有無に関わらず子どもから大人 まで様々なメンバーが手話と思い思いの パフォーマンスをステージ上で行いまし た。今後も未来を担う子供たちに共生社 会の素晴らしさを伝え、笑顔の輪を広げ ていきます。
<u>つどい場 このゆびとまれ</u> (15 万円) 老人ホーム、デイサービス、作業所と	認知症の方とその家族・障がいのある 方・こども達など多くの方に「つどい 場」という居場所があることを知って もらうためイベントを開催しました。今後

つどい場つながろうプロジェクト	も老人ホーム・デイサービス・作業所と繋がって、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指していきます。
<u>兵庫県立姫路商業高等学校 地域創生部</u> (50 万円) 二つの大震災の教訓を 100 年先の未来へ ～「繋ぐ・伝える・備える」命の語り部 Project～	災害食「ふわ姫パン」の普及活動を通して防災・減災に関する啓発・語り部活動を実施しました。今後も災害に関する見方や考え方を「他人事」ではなく「自分事」として捉えてもらえるよう防災意識を向上させる活動に取り組みます。
<u>被災支援ボランティア団体</u> <u>「おたがいさまプロジェクト」</u> (50 万円) #被災者の思い出を守ろう ひょうご発の写真洗浄拠点づくり	兵庫県初の写真洗浄拠点を神戸市内に設立しました。今後、写真洗浄の作業場所や地域交流、情報発信など地域の人に参加しやすいシンボリックな場とします。若い世代の担い手を増やし、多世代で交流することにより地域防災や日頃から支え合うことの大切さを共有していきます。
<u>NPO 法人</u> <u>放課後学習ボランティア支援の会</u> (50 万円) 子どもの可能性を広げる！ 小学生学習支援プロジェクト	神戸市内(垂水区・東灘区)の5つの小学校で、地域のボランティアの力を借りて放課後学習支援を実施しており、さらに3校増やしました。今後も各学校への認知拡大を図るとともに、学校と地域ボランティアをつなぐ運営コーディネーターの獲得・育成などの支援体制の充実に努めていきます。
<u>播州ストリートダンス協会</u> (30 万円) ダンスでつながる 多世代・多能力コミュニティプロジェクト	月に1回程度の練習会に参加する親子を募り、ダンスを楽しむ活動をしました。また、発表の場として地域のイベントのステージに参加しました。今後も健常者と障がい者が一緒に練習し、イベントに参加することで偏見や差別をなくし相互理解を促進していきます。
<u>特定非営利活動法人</u> <u>多文化センターまんまるあかし</u> (50 万円) 外国人住民を情報弱者にしないための 地域密着型多言語情報発信事業	常時発信する多言語情報発信のプラットフォームと在住外国人が必要で正しい情報を受け取る方法を確認しました。市の情報をピンポイントで提供することで地域の正しい現状を把握し、在住外国人にとって住みよい地域社会になることを今後も目指していきます。
<u>神戸の伝統野菜保存の会</u> (50 万円) コンテナ栽培を活用し 「社員の活性化・社会貢献」を図る	企業との連携は現在も模索中ですが、大学の農園を活用し、学生のサークル活動として野菜のコンテナ栽培を実施しました。今後、栽培管理体制を確立し、収穫物の一部をこども食堂に提供することで社会貢献に繋がります。さらに地域住民に

	も開放し、参加していただくことで大学と地域の交流の場を提供します。
--	-----------------------------------

②助成団体を訪問し賛同企業へ報告

財団スタッフが9団体を訪問してプロジェクトに込めた想いや進捗状況をヒアリングし、訪問記にまとめて賛同企業に伝えました。今後も賛同企業には助成団体の活動状況などを丁寧にお知らせし、継続的な支援を呼びかけます。

(3) ひと育て、学びや交流の場の充実

①第5回「高校生ともしびボランティア顕彰」を実施

第3次中期計画の柱の一つである、若者のボランティア人材の育成のための取り組みとして「高校生ともしびボランティア顕彰」を実施しました。高校生がボランティア活動を通して、心豊かに成長し、次代の担い手となることを目的としています。

2023年度も兵庫県教育委員会と兵庫県私立中学高等学校連合会のご後援を得て神戸市校長会・県校長会でのご案内や各高校へダイレクトメールを出すなどの広報活動を行った結果、県内21校から申請がありました。初めて定時制高校からの申請があったことや西播地域の高校からの申請が増えたことなどが大きな特徴でした。

選考会を経て下記19校の顕彰を決定し、顕彰状と第5回を記念して副賞として5万円を贈りました。また、顕彰校を訪問し、財団の機関紙「ともしび通信」で生徒達の活動を紹介しました。

顕彰を受けた高校生の交流会を3月29日に開催し、17校約70名の先生・生徒、コープこうべの地区マネージャーなど職員も約20名が参加しました。

(顕彰団体 19校)

学校名/団体名	主な活動内容
明石市立明石商業高等学校 生徒会	街頭や地域のお祭りでの募金活動
学校法人芦屋学園 芦屋学園高等学校 ボランティア部	校内でのSDGsの啓発活動・ 「子ども食堂」のボランティア
学校法人甲南学園 甲南高等学校 ボランティア委員会	子供の見守り活動～子供と本を楽しもう
学校法人玉田学園 神戸常盤女子高等学校 ボランティア部	ウクライナ避難民支援活動
神戸市立葺合高等学校 すぎな会	「みんなのLuck Field」(小学生の居場所、 学習支援)への参加
兵庫県立明石清水高等学校 ボランティア部	「環境フェア 2023」に参加

兵庫県立明石西高等学校 ボランティア部	小学生を対象とした放課後学習サポート
兵庫県立赤穂高等学校 定時制課程 ボランティア部	高校生が企画する赤穂観光バスツアー
兵庫県立芦屋高等学校 ボランティア部	地域住民のインタビュー記事を書く「新聞記者」活動
兵庫県立伊川谷高等学校 ボランティア部	手作り人形劇で SDG s の啓発活動を地域に発信
兵庫県立伊丹西高等学校 WEST	イベント企画を通しての地域交流
兵庫県立香寺高等学校 食物部	子ども食堂のボランティア
兵庫県立須磨友が丘高等学校 生徒会執行部	西須磨コミュニティバスの利用増加に向けた宣伝方法の提案
兵庫県立太子高等学校 Jコーラス部	音楽を通して地域に元気や笑顔を届ける
兵庫県立龍野北高等学校 全日制 ボランティア部	「たつの市民まつり」において依頼を受けてブースの一部を運営
兵庫県立龍野北高等学校 定時制 兵庫県立龍野北高等学校 定時制	「たつの市民まつり」において依頼を受けてブースの一部を運営
兵庫県立姫路商業高等学校 地域創生部	災害食の普及活動を通して防災・減災に関する啓発・広報
兵庫県立舞子高等学校 天文気象部	星空観察会の開催、小型望遠鏡・モデルロケットの組み立て・打ち上げ活動
兵庫県立和田山高等学校 自然・農学班「わこう さつま藩」	サツマイモ栽培を通じて地域課題の解決

②シェアミーティングを開催

助成団体対象の「緩やかに繋がるシェアミーティング」を2月の2日間で開催しました。悪天候や体調不良などの影響で参加者は各日1名でしたが、自団体の活動内容の紹介から近い将来に実践したいことの相談など話題は多岐に渡りました。結果、「(仮称)未来に向けての種蒔き会」が立ち上がり、数団体で会合を持つこととなりました。助成団体の中からは、団体同士もさることながら、ともしび財団スタッフとの交流を望む声が上がりました。今後もこのような緩やかな場をきっかけにコープこうべやNPO法人などの諸団体や行政、専門機関などと繋がる場づくりを目指します。

2. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに拡げます

(1) 当財団の活動を積極的に広報し、共感を広げる

①ともしび通信の発行

年4回発行のともしび通信では、団体の情報や財団の動きなどを丁寧に広報しました。特に今年度は、助成団体同士の繋がり紹介などテーマを設定して掲載することで財団の思いをご理解いただくことに注力しました。賛助会員からの要望により読みやすくなるよう色や文字の大きさを変更し好評をいただきました。

②コープこうべと連携した広報

コープこうべの様々な取り組みを紹介するラジオ関西の番組「コープ・スコープ」で月1回5分程度の枠でスタッフが出演し、財団について紹介しました。各月の内容は、ボランティア活動助成、やさしさにありがとうひょうごプロジェクト、高校生ボランティア顕彰の案内です。また、助成団体も3団体出演し、活動内容を紹介いただきました。出演団体からは、自団体の広報になるとともに、活動そのものを振り返る良いきっかけになったと好評でした。

(3) コープこうべの関連部署や組合員組織と連携し、広報活動を推進

①コープこうべ地区開催の「地域つながるミーティング」に参加

コープこうべの地区が開催する「地域つながるミーティング※」に出席し、財団についての紹介とボランティア活動助成の案内をしました。その中から実際に新たな団体の助成説明会への参加があり、申請をいただきました。今後も「地域つながるミーティング」に出席し、財団への理解を深める機会としていきます。

※地域つながるミーティングとは

2022年2月からスタート、組合員と地域の多様な活動者との出会いと共有を目的にコープサークルや地域コープ委員会のメンバーをはじめ地域の活動団体が参加、今後も夏と冬の年2回以上開催する予定。

3. 財団の基盤の安定をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図ります

(1) 資金調達の強化

①2023 年度賛助会費・寄付・募金について

(単位:円)

		2023 年度実績	2023 年度目標	2022 年度実績	2021 年度実績
賛助会費	個人	701,000	700,000	690,000	644,000
	法人	1,190,000	1,200,000	1,250,000	1,320,000
賛助会費合計		1,891,000	1,900,000	1,940,000	1,964,000
寄付	個人	1,309,035	1,000,000	996,366	716,870
	お香典にかえて	300,000	250,000	160,000	350,000
	法人(やさしさ)	2,100,000	2,300,000	2,300,000	2,300,000
	法人(上記以外)	0	0	100,000	0
	まいくる	1,113,792	1,100,000	1,069,680	1,042,273
	つり銭チャリティー	542,866	450,000	467,293	503,160
寄付合計		5,365,693	5,100,000	5,093,339	4,912,303
募金	集中募金	6,912,468	6,500,000	6,345,228	7,584,251
	めーむポイント	1,826,500	2,400,000	2,299,900	3,786,300
	きしゃぼん	435,042	600,000	677,197	778,979
	切手・はがき	0	50,000	83,129	131,619
	その他	17,929	50,000	127,547	54,836
募金合計		9,191,939	9,600,000	9,533,001	12,335,985
総合計		16,448,632	16,600,000	16,566,340	19,212,288

※2023 年度実績の切手・はがきについては、2024 年秋に郵便料金改定が予定されていることから使用可能切手への交換を見送りました

賛助会費や寄付はほぼ目標金額どおりでした。募金については、めーむポイントが目標を下回る結果となりました。

②古本募金「きしゃぼん」や書き損じハガキ回収などの取り組み

2016 年の 7 月から新たに取り組み始めた「古本募金 きしゃぼん」は約 7 年間で約 29 万点を超える古本が寄せられ、約 581 万円の募金が実現しました。2023 年度は、約 44 万円の募金金額でした。コープの店舗を中心として回収ボックスを 20 か所に設置しています。また、コープ委員を対象に書き損じハガキや未使用切手の回収を呼びかけ、個人なども含め計 9 か所から寄せられました。

③夕食サポート事業からの寄付

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用 1 食あたり 0.5 円を当財団に寄付いただいています。毎年緩やかに増加しており、2023 年度は 1,113,792 円(前年比 104.1%)になりました。

④基本財産運用

2023年3月に第61回利付国債3,460万円が満期償還され、いったん預け金としましたが、6月に兵庫県令和5年度第4回公募公債（グリーンボンド）10年を購入しました。購入に際しましては、債券検討会を開催しました。結果、より安全かつ確実性が高く、財団にふさわしいSDGs債がよいとのことで購入に至りました。

2023年度運用状況は、25ページのとおりです。

（2）財団の基盤、人材育成の強化

①財団スタッフの学びを促進

入所3年以内のスタッフを対象にボランティアコーディネーターとして必要な知識を習得するためeラーニングで「ボランティアとコーディネート理解」を受講しました。また、他団体が主催する地域連携フォーラムや居場所研究会、助成事業報告会にスタッフが参加し、情報収集と共に現状の課題認識、必要とされる支援について学びました。また、地域課題解決への新しい手法として注目の「労働者協同組合」について学ぶセミナーにスタッフが参加しました。

2023年度は次年度以降5年間の第4次中期計画の策定年度に当たることから、これを機に生協の父ともいわれる賀川豊彦の記念館を全員で訪問しました。記念館は陳列資料による学習だけでなく、その精神を受け継ぐ実践の場であることが非常に印象的でした。